

和歌山病院での実習を終えて



東方 謙介

「影絵知ってるか?」「ハト作ってみて」

和歌山から鈍行に揺られ1時間、さらに車に乗り換えて20分。この長閑な地でどんな胡散臭い2日間が始まるのかと思った。しかし、その予想は良い意味で裏切られた。一度他の講義を挟んで計3~4時間くらいであったらどうか、苦手意識があり、いつも何となく眺めていた胸部レントゲン画像がどんどん面白くなっていくのである。1時間も話を聞けばたいていは飽きてしまうのに、南方先生はとても話が分かりやすく、「こうやって読むのか!」と、むしろ引き込まれていく。すっかり丸暗記に慣れてしまっていた頭を久しぶりに使って考え、少し疲れたが、胸部 X 線画像の読影方法の基本を理解することができた。

他にも結核についての講義や、N95 マスクを初めて装着し、完成して間もない結核病棟を見学させていただいたり、実機を手に取り様々な種類の人工呼吸器の説明をしていただいたりした。

今回の和歌山病院での実習はとても有意義な2日間となった。ここで得た知識を生かし、今後も実習や勉強を進め、良い医者を目指したいと思う。

末筆ながら南方院長、駿田副院長はじめ、お世話になりました和歌山病院の皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。